

第2学年 道徳学習指導案

第 時限 2年 組教室

指導者

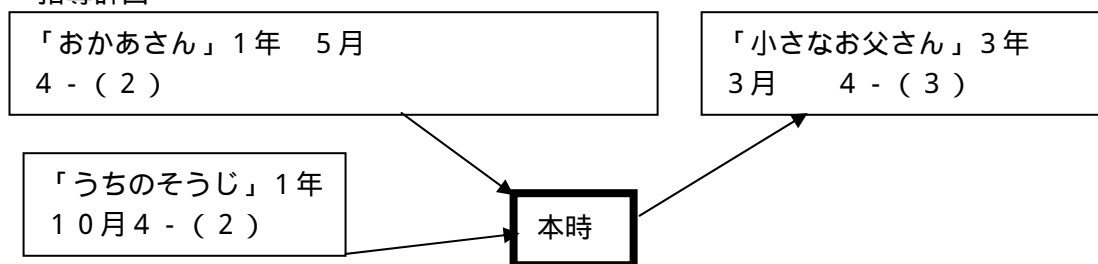
- 1 主 題 進んで家の手伝いをしよう 4 - (2) 家族愛
- 2 資料名 「さやかさんのおにぎりづくり」(出典 県振「明るい心」)
- 3 主題設定の理由

本学級は、祖父母にかわいがられている子が多く、「おばあちゃんがね。」「おじいちゃんの家に行ったよ。」という話をよく聞くことがある。お母さんについては、言えば何でもやってもらえる、やってくれて当たり前という考えがあるが、家族の一員としての役割を果たそうとする意識を持っているように見える。家の仕事については、父母や祖父母とともに取り組んだ経験があり、進んでやろうとする気持ちを持っていると考えられる。1年の生活科では、家族が自分のためにしていることを知り、自分でもできる仕事に挑戦した。しかし、それが定着し、継続しているだろうか。2年の4月から家庭学習の一環として、「進んでお手伝いをしよう」と家庭に呼びかけ、できるだけ手伝いをさせてもらえるようお願いしてきた。毎日決めてやっている子もいるが、言われて時々やっている子が多い。また、親の方も、忙しいということもあり、つい自分でやってしまうようである。

この資料は、父母が出かけているとき、主人公のさやかと兄のまさるが家に帰ると、祖母が手にけがをしていた。二人は祖母の代わりにおにぎり作りに挑戦するという話である。祖母のけがを見ておにぎり作りを自分から進んでしようと思った主人公の気持ちに触れ、次に、母や父から「おかあさんうれしい」「チーズもなかなかうまい」といわれたときの主人公の気持ちを考えさせたい。そして、二人がほめてもらったことを不思議に思ったのはなぜか、について考えさせ、心を込めて作ることの大切さや進んで家族のことを思い、家族の一員として働く気持ちの良さに気づかせたい。

家庭は家族の自然な愛情によって結びついている。しかし、日々の暮らしの中で、家族相互の思いやりや愛情を当たり前のように受けとめ、感謝の気持ちを忘れてしまうこともあるのではないだろうか。家族の愛は、家族のみんなが相手の立場に立って考え、互いに感謝する気持ちを持って助け合っていかなければ、と考える。そこで、家族の仕事に目を向けさせ、自分でできることは自分で行い、家の仕事を分かち合うことによって家庭も助かり自分も家庭の役に立つことができたという自信を持ち、気持ちよく暮らせることを理解させたい。

4 指導計画



5 本時の学習

(1) ねらい

- ・ いつも温かい心で見守ってくれる祖父母・父母に感謝し、進んで家族の一員として働くこうとする気持ちを育てる。

(2) 準備

教師……場面の絵、センテンスカード、エプロン、手紙（事前に家庭と連絡を取り子ども宛の手紙を書いてもらい回収した物）

(3) 学習過程

	学 習 活 動 指 導 上 の 留 意 点	評 価
5	<p>家の人に優しくしてもらい、うれしかったのは、どんなときですか。</p> <p>遊んでもらった。買ってもらった。つれてってもらった。</p> <p>資料を読み、役割演技を見ながら話し合う。</p> <p>おばあさんがけがをしたことを知ったとき、さやかさんは、どんなことを思ったでしょう。</p> <p>けがが軽くてよかった。こまったな。おにぎりができないな。むずかしそう。でも、わたしでもできるかもしれない。</p> <p>教えてもらいながら、おにぎりを作っているときさやかさんは、どんなことを考えたでしょう。</p> <p>いろいろな物を入れるとおいしそう。おにぎり作りは、難しいけど楽しい。今日は、おばあちゃんに作ってあげる。お父さんとお母さんの分も作ってあげる。</p> <p>「うれしい」・「うまい」とお母さんやお父さんに言われたときさやかさんは、どんなことを思ったのでしょうか。</p> <p>気持ちが入っていることが大切なんだ。また作ってあげようかな。あたりまえのことをしただけなのに、こんなに喜んでくれてうれしい。</p> <p>自分でもできたし、父母にも喜んでもらえたうれしい気持ちをとらえさせる。</p> <p>今までに家族のためにしたこと、家族がよろこんでくれたのはどんなことですか。</p> <p>妹の世話をした。毎日やっている風呂洗い。洗濯物をたたんだ。</p> <p>5 家族から届いた手紙を紹介する。</p>	<p>家族に優しくしてもらったときの様子をいろいろ思い出させる。</p> <p>資料の内容を理解できたか。</p> <p>おにぎり作りを決心した気持ちを考えさせる。</p> <p>二人の気持ちに迫ることができたか。自分ができることをいろいろ考えさせる。</p> <p>具体的にいろいろ出させる。</p> <p>ほめられた二人の気持ちを想像させる。</p> <p>ほめられてうれしい二人の気持ちが理解できたか。</p> <p>子どもらがどんなふうにかえるか。一人ひとりの発想を大切にしたい。</p> <p>自分の考えを出すことができたか。</p> <p>不思議に思ったのは、なぜかを考えさせる。</p> <p>家族が喜んでくれた体験を発表し、家族の一員としての役割を果たしたい気持ちが高まったか。</p>

(4) 評 価

資料を読んで二人の気持ちにせまり、自らの体験を補うことによって、家族の一員として手伝えることが気持ち良いということを実感することができたか。